

平成29年度 観光商材開発支援事業

1 目的

市内企業の外国人観光客向け商品開発に係る経費の一部を補助することにより、外国人観光客による消費拡大を促し、市内企業の販路拡大等につなげることを目的とする。

2 補助対象者

札幌市内に本社(本所)を有する外国人向け観光商材*の製造者となる中小企業。または札幌市内に本社(本所)を有する、観光商材の企画・販売者となる企業(大企業を含む)。ただし、販売者は北海道内に本社(本所)を有する中小企業に対して観光商材を委託製造させること。

*「観光商材」とは、外国人観光客を対象とした、お土産品(食品、雑貨等)とする。

3 補助対象事業

外国人観光客への販売拡大を図るため、観光商材の開発を行い、流通させる事業

4 補助内容

補助対象経費の1/2以内、上限額70万円を補助。

【その他支援】

- ・開発製品のアンケート、外国人の嗜好等の調査を目的とした留学生によるモニタリングを実施。
- ・新商品の販路開拓支援として、「東京インターナショナル・ギフト・ショー春2018」に共同出展。

5 補助件数

9件

(平成29年度採択案件)

- 雑貨等・北海道のお花とありがとうのポストカード開発(ありがとうの花束Sachi&Aki co.)
 - ・外国人観光客向け「サムエジャケット」開発(株式会社ノースグラフィック)
 - ・海外客向け工芸土産品テーブルランプの開発(清水勸業株式会社)
- 食品・海外向けカシューナッツ詰め合わせギフトの開発(池田食品株式会社)
 - ・「炙り焼蒲鉾 猿払産ほたて/増毛産甘海老」の開発(株式会社かね彦)
 - ・北海道プレミアムクッキーの開発(株式会社小六)
 - ・幻の玉ねぎ札幌黄のスープカレーラーメン開発(株式会社ブルックスカレー)
 - ・五穀豊穡(北海道のお米詰め合わせセット)開発(株式会社MACH)
 - ・札幌ラーメン乾麺(アニマルフリー)開発(有限会社ムラキフードプランニング)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 製造費 ■ 機器費 ■ 検査・認証費 ■ マーケティング活動費 ■ 旅費
- その他市長が適当と認める経費

7 募集期間

平成29年4月28日～5月30日

8 申請の受付・問い合わせ

経済観光局国際経済戦略室経済戦略推進課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL:011-211-2481 FAX:011-218-5130

URL: <http://www.city.sapporo.jp/keizai/tradeinfo/kankoshozai/kankoshozai.html>

*平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

清水勸業株式会社

海外客向け工芸土産品テーブルランプの開発

- 所在地/札幌市中央区南11条西20丁目4-8
- TEL/011-561-4201 ●FAX/011-561-4238
- 代表者/代表取締役社長 渡辺 洋人
- 設立/1947(昭和22)年9月 ●従業員数/23名
- URL/<http://www.43z.co.jp/>

清水勸業株式会社は昭和22年十勝清水町で創業。主に北海道電力社へ電気資材の卸として歩んできた。事業の多角化や新分野の進出などにより、事業領域は次第に拡大。産業用の機材販売や住宅関連の暖房機販売などの分野へも進出している。30年ほど前からはLEDランプの研究開発をも手掛け、個人客向けの照明商品の開発・販売にも挑む。

業務で培ってきた技術力を活かして新分野を開拓 外国人観光客向けにテーブルランプという工芸土産品の販売に挑む

電気メーカーとのつきあいの中から

電気資材の卸を中心として成長してきた清水勸業株式会社は、北海道電力を主な得意先としてきた。卸売業ゆえに各種メーカーとのつき合いも多く、屋外看板や電気照明の案内板といったLED照明の製品も数多く取り扱ってきた。そんな経緯から、札幌の照明デザイナー事務所とのつながりが生まれ、2006年ごろから商業施設のライトやホテルロビーなど、デザインセンスあふれる雰囲気のいい照明計画の設計・設置に携わってきた。

こうした流れのなか、一般個人客向けの商品開発に挑み、ユニークな照明商品を開発してきた。その特長として「自然のゆらぎ」がある。温かみのある電球色のLEDを「1/fゆらぎ」と呼ばれるランダムに点灯する回路をつかい、より自然に近いロウソクの炎がゆらいでいるような灯りを演出することができる。こうしたゆらぎLEDを搭載した照明器具は、「建物シリーズゆらぎ照明」として札幌時計台のミニチュア模型の中に電球を入れて窓からあかりがもれる照明器具などを開発、販売してきた。

札幌ならではの土産品への期待

オリジナルの照明商品は「北のらっちゃん」というブランドネームで販売される。今回、外国人観光客向けの土産として「灯の樹」と「灯妙」を開発。和の趣を演出した手のひらサイズの小型照明で、取扱説明書には英語の表記も取り入れた。贈り物を想定した高級感あふれるパッケージは、専門家からのアドバイスを受けて、持ち帰りやすさを考慮し、小型化に努めた。

灯の樹は、北海道の雪を被った樹木のデザイン。円錐が点灯すると、北国のさまざまな風景が映し出される。灯妙は日本古来の燭台を模したデザイン。シンプルに描かれた北の自然が浮かび上がる。訪日外国人旅行者が、札幌の風景を思い出してもらいたいという想いも込められている。これら映し出される風景写真やイラスト、記念写真もパソコンから透明フィルムに出力して型に沿って円錐形に切ればそのデザインが浮かび上がるように。使い方、提案の仕方によっては可能性が広がる商品。スイーツが主流の札幌観光のお土産品にあって、異彩な輝きをはなつ同社の新シリーズのヒットが期待されている。

反応は上々、販売方法に工夫したい

東京のギフトショーに出展した反応としては「外国人に興味をもたれそうで、おもしろい」という声が多数寄せられました。今は新千歳空港国際線ターミナルビル3Fの土産店「小笠原商店」と富良野市内のニングルテラス「紙々の森」で販売しています。大量生産ではないので販売価格がネックかもしれません。今後はホテルなどもタイアップして販売できればと思っています。



取締役
グループリーダー 野田 英樹
代表取締役社長 渡辺 洋人

右が「灯の樹」、左が「灯妙」。1/fゆらぎで点灯するため、自然な風合いの灯りになっている



お土産品利用を想定した製品パッケージ



図版はかんたんに差し替えられる

